

## 神河町の地蔵盆

足田彩花・松岡聖也・有賀陽平

### 1. 柏尾・追上区の地蔵盆

地蔵盆とは

地蔵盆とは京都で始まった地蔵菩薩の縁日前後を中心に地蔵を祀る行事のことである。多くは8月23・24日の二日間にわたっておこなわれる。地蔵は主に子どもを守ることから、地蔵盆は子どもが中心となっており、お菓子などがふるまわれる。地蔵盆は地蔵信仰から発生し、古くは平安時代までさかのぼり、次第に民衆に定着していき、現在のような地蔵盆となったと考えられている。

近年の少子化をうけて地蔵盆の規模は縮小傾向にあるが、現在でも近畿地方を中心に九州や東北の一部でも認められ、インターネットによれば（2016年8月現在）、兵庫県内では太子町以外の地域で地蔵盆がおこなわれている。今回調査した神河町の一部地域では、数珠繰りや花だんごといった特徴的な行事もみられる。ここでは柏尾・追上・赤田・川上区の地蔵盆を紹介したい。

柏尾区の地蔵盆

調査1日目の15時30分頃、柏尾区の法性寺に到着したが、この段階では境内内外に設置する提灯や子どもたちが絵を描いた灯籠などが準備され、参道入り口付近には竹笹の結界が設けられていた（写真1）。

18時30分頃に再訪すると地蔵盆はすでに開催されており、子ども23人、女性16人、男性10人が参加していた。子どもたちはカレーを食べており、他にもジュースやお菓子が準備されていた。

再訪時には数珠繰りは終了していたが、ご厚意で再現してもらい、学生4人も参加した。中心に女性が座り、鉦をたたきながら般若心経を唱え、それにあわせて他の人々も般若心経を唱和し、珠数を時計回りに送っていた。この数珠には親玉が二つあり、それが回って



写真1 竹笹で作られた結界



写真2 地蔵盆に使われる数珠と鉦



写真3 数珠繰りの様子

くると額に近づけ祈祷する（写真2・3）。今回は般若心経1巻分であったが、通常、大人のみでは3巻分、子どものみでは2巻分回すこととなっている。数珠は普段、数珠箱に入れられており、珠数箱の蓋の裏表には明治30年（1897）に地元の有志によって奉納されたことを示す墨書が認められた。なお、般若心経などの経文は印刷され、配布されている。

#### 追上区の地蔵盆

調査2日目に追上区を訪れた。追上区では8月20日に地蔵盆を実施しているという。追上区の地蔵は六地蔵で、柏尾・川上区における地蔵と異なっている。

#### まとめ

今回のフィールド実習で柏尾・追上・赤田・川上区を訪れ、それぞれの地域の地蔵盆について調査することができたが、ここでは地蔵盆に参加した柏尾・赤田・川上区の事例についてまとめる。地蔵盆は柏尾区では8月21日、赤田・川上区では8月23日に開催され、その場所も柏尾・川上区では寺院、赤田区では多目的集会施設であった。数珠繰りは今回、柏尾区のみで確認できたが、寺前区の最明寺でもおこなわれている。一方、花だんごは柏尾区ではみられず、赤田区と川上区では認められる。屋台や盆踊りは調査対象の全ての区で開催されていたが、そのうち柏尾区のみが別の日に盆踊りをおこなっている（表1）。

今回、実際に地蔵盆に参加したが、地元を離れ地蔵盆のために帰省する人もおり、地蔵盆が地域の人々と深くつながっているということをおうかがい知れた。（疋田）

## 2. 赤田区における地蔵盆について

### 花だんご作り

赤田区では8月23日に地蔵盆がおこなわれている。ここでは地蔵盆と花だんごについて報告する。赤田では13時から、男性は竹の採取、女性は花だんご作りなど、地蔵盆の準備作業を始めるという。花だんごは川上区から伝わってきたものである。花だんご作りの行程は以下の通りである。まず、住民が供出したうるち米ともち米をあらかじめ専門店で粉にし、それをぬるま湯でこね、にぎりこぶし大にし、20分間蒸す。蒸しあがると餅とり粉を混ぜ、臼と杵でついていく。あくまでもだんごなので、餅ほど柔らかくなく、耳たぶほどの固さが必要で、そのためにもち米2合にうるち米2升を配合し、つきすぎないように気を付ける。

次に女性が一辺8cmのひし形の型を基準に餅を切り、餅を彼岸花（ハスともいっていた）の形に成形していく（写真4）。基本形はあるが、独自の工夫を加えたハスの形にしたものもあり、これを男性が作成した竹串を刺していく。これに赤・緑・黄3色の食紅で「花」字を書き入れる（写真5）。

花だんごは60個ほど作り、残った餅はレンジで再加熱して、椿の花をかたどり、赤と黄で着色して葉付きの枝にくっつける。この椿型のだんごは、花だんごとともにすべて藁を束ねた土台に差し込み飾る。16時頃、飾り付けを終え、地蔵に供えに行く。

赤田区では約20世帯からなる隣保を一班として、一年ごとに交代して花だんごを作っている。なお、今回の調査時には、婦人に交じて中学3年生の女子も手伝っていた。

女性が花だんごを準備している間に、男性

表1 各地域地蔵盆の比較

	柏尾区	赤田区	川上区
開催日	2016年8月21日	2016年8月23日	2016年8月23日
開催場所	法性寺	多目的集会施設	福田寺
数珠繰りの有無	有	無	無
花だんごの有無	無	有	有
祭りの要素の有無 (盆踊り、屋台)	無 ※別日に盆踊り実施	有	有

は櫓を組み、屋台も設置する（写真7）。

#### 庚申堂での法会

男性は15時頃、女性は18時頃になると、準備作業をほとんど終えて、一時帰宅した。浴衣などに着替え、19時前に集会施設内の庚申堂で法会に参加するため再び集まる。和尚は同町長谷区の祐泉寺（本山は妙心寺）の住職で、大川原区で法会を終えた後、赤田区に来る。以下、法会の流れを述べる。

まず、和尚が焼香し、その後、村人も般若心経を唱える。参加者は年輩の男性が比較的多く、女性は少なかった。唱え終わった後、参加者が焼香をする。全員が焼香を終えると、洗米と切りナスを混ぜたものを別の容器に移し替え、また水で濡らした榊で祭壇に向かって撒くという行為を、区長から順に1人ずつおこなっていく（写真8）。最後の女性が終わると、再び全員が焼香する。その後、和尚が講話をおこない、再び般若心経などを唱える。これで庚申堂での法会は終わりである。

この法会の最中、子どもや若者は、焼きそばや射的、金魚すくいなどをする。この屋台は村おこしの一つで、その収入は6月に開催されるほたる祭りの資金源になるといふ。19時30分になると、集会施設を出て少し離れた道路で花火がおこなわれた。これは庚申堂での法会に参加していない10人程度の子どもたちを楽しませるために、若者（中学3年生女子2人、29, 34, 38歳男性、21歳女性）が中心となって準備、点火作業をおこなっていた。花火は村民の共同出資により、毎年催されている。

庚申堂での法会が終わると、花火も終え一同地蔵の前に集まる。20時過ぎ、和尚が読経し、その後全員が線香をあげた（写真9）。地蔵に供えられた花だんごは各自一本ずつ持ち帰り、食するが、特に意味はないという。無味であるため、焼いた後、醤油を加えるか、味噌汁に入れて食べているとのことである。

以上が赤田地区の地蔵盆の一連の流れである。少ないながらも地蔵盆に参加し協力する若者の姿が目立った。櫓組みの手伝いをする高校3年生の男子、子どもたちを退屈させないようにと花火の準備をする青年たちなど、随所に活躍していた。若者の中には仕事



写真4 餅をハスの形に成形する



写真5 花だんごに文字を書き込む



写真6 地蔵に供えられた花だんご



写真7 屋台の準備風景と完成した櫓



写真8 法会の様子



写真9 地蔵にお経を唱える様子



写真10 壇の地蔵



写真11 花だんご用の竹作り

で区外に出ている者も少なくないが、地蔵盆には帰ってきて参加しているという。また、夫が赤田区出身である寺前の30代女性は、地蔵盆の時には子ども3人を連れて参加しているという。受け継いできたものを絶やさず伝えようとする側とそれを受け継ごうとする側の間にも生まれる「伝承」を、赤田の地蔵盆でうかがえた気がした。(松岡)

### 3. 川上の地蔵盆

8月23日14時20分頃、川上区福田寺に到着したが境内ではすでに盆踊り櫓、紅白の提灯が用意されており、六つの隣保からそれぞれ数名の男性が集まり準備していた。

#### ○壇の地蔵

壇の地蔵は本堂とは別に安置されている(写真10)。地蔵は保存状態が良好で、風雨による侵蝕もみられない。川上区の地蔵盆では平家落人伝承を有するこの地蔵が祀られる。なお、地蔵堂には「安政五年 中秋施主 草壁廣右エ門 川上村 福傳寺 什物 世話主 経山 法印」銘の内鈴もある。

#### ○花だんご作り

川上区の地蔵盆では花だんごが重要となる。これは各家庭から集めたうるち米から作られる。隣保ごとの作り方に違いはないが、花だんごの大きさ・形状・色などは異なり、それぞれの特徴が認められる。

#### ○隣保ごとの準備

川上区の隣保館を訪れ、各隣保の花だんご作りの見学および、山名宗悟神河町長・川上区長はじめ区民の方々に聞き取り調査をおこなった。なお、5番組は聞き取りのみで、6番組は未調査である(各隣保館の位置は図1参照)。

#### ・1番組

14時30分、川上地区1番組隣保館に到着し、花だんご作りおよび飾り付けの様子を調査開始した。各家庭男女1名ずつが参加し、里帰りして参加する方もいた。男性は屋外のテントで花だんご用の竹の削り出し、だんごつき、だんごを伸ばす作業などをおこなう(写真11)。女性は花だんご作り、「花」の字の筆入れ、調理などを分担でおこなう(写真12)。

・3 番組

15時55分、3番組隣保館の聞き取りを始めるが、すでに台座への取り付けがおこなわれていた。ここでは花だんごのほかに、ツバキや吹き流しのような装飾的なものも作られていた(写真13・14)。また、地藏盆に関するノートが作られ、毎年の準備内容などが記録されている(写真15)。

・2 番組

16時30分から2番組隣保館で聞き取り調査をおこなう。すでに花だんごは完成しており、後片付けが始まっていた。スイカや余っただんごなどがふるまわれる。

・4 番組

17時02分、4番組隣保館で聞き取りを開始する。花だんごの仕上げと隣保館で食べられる夕食が準備されていた。4番組では2015年からだんごに直接食紅を練りこみ着色している。夕食がふるまわれ、その後解散となる。

○福田寺での地藏盆

各番組は、およそ17時30分までに福田寺にそれぞれの花だんごを運び込む。花だんごの台座には石が敷き詰められているため、それなりに重い。

18時30分頃、辺りが暗くなってくると炭坑節が流れ始める。18時50分に4番組が福田寺に到着し、全番組の花だんごが壇の地藏の回りに並置される(写真16)。

19時03分、読経が開始され、各隣保の代表者1名とその他数名が参加する。福田寺は無住寺院であるため、読経は町内の七宝寺の住職によって般若心経などが唱えられ、参加者も詠唱する。19時12分読経が終了し、境内には再び炭坑節が流れる。境内には盆踊り櫓1基とテント1張りがあり、テントでは飲み物が配布され、くじ引きがおこなわれていた(写真17)。盆踊りは22時頃まで続けられる。

○片付け

片付けについては不明であるが、地藏堂内に飾られた花だんごは、盆踊り終了後か翌日に各家庭に持ち帰られる。これらは雑煮、きな粉や砂糖などをまぶして食されるほか、風通しの良い欄間などに飾ることもあるとい



写真12 型紙を用いてひし形に成形



写真13 成形された花だんご



写真14 吹き流し型のだんご

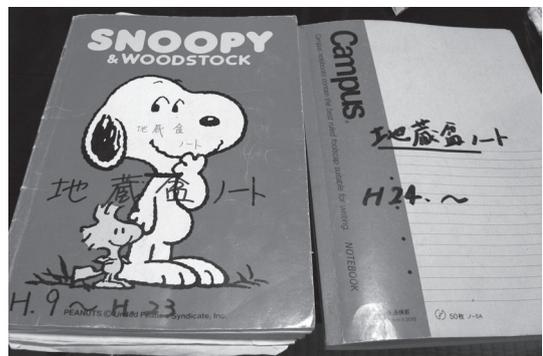


写真15 地藏盆ノート



写真 16 花だんごを設置した堂内



写真 17 テント前の様子

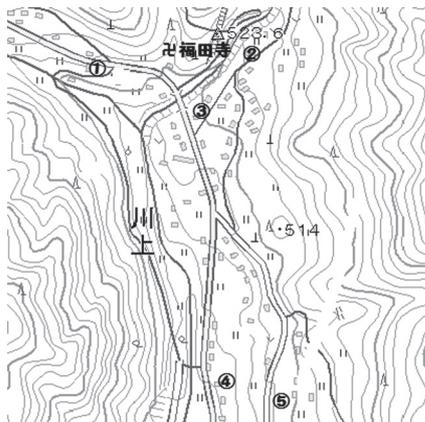


図 1 川上区隣保館位置図

表 2 各隣保ごとの比較

	戸数	花だんごの株数	花弁の数	上弁の装飾の有無	花の書体	一軒あたり集める米の量	夕食の有無	ツクリモノの有無	ツバキの有無	台座の材質
1 番組	12	1	12	○	行書	5 合	○	×	○	稲わら
2 番組	15	1	12	○	行書	5 合	未調査	×	○	麦わら
3 番組	14	1	14	○	楷書	4 合	×	×	○	稲わら
4 番組	11	1	12	×	楷書	1 升	○	×	○	稲わら
5 番組	5	1	16	○	楷書	9 合	×	×	×	稲わら
6 番組	20	1	14	○	行書	10 合	未調査	○	○	未調査

表 3 花だんごの大きさ

	タテの長さ	ヨコの長さ	厚さ
2 番組	113mm	153mm	14mm
4 番組	98mm	134mm	10mm
5 番組	117mm	126mm	14mm
赤田区	113mm	109mm	7mm

う。この花だんごを食べると、風邪などの病気にかからないといわれている。

#### ○花だんごの比較

各隣保の花だんご作りにおける差は表 2・3 の通りである。上部装飾とは花だんごの頂点にある巻き込みをいい、隣保ごとに違いがある。各隣保はそれぞれ他の隣保の花だんごを意識して、毎年創意工夫しているため、花だんごの製作方法なども年々変化がみられる。(有賀)

#### 【参考文献】

- 神河町教育委員会 2016 年 『神河町歴史文化基本構想』  
 京都市文化市民局文化財保護課 2016 年 『「京の地蔵盆」ハンドブック』  
 京都の「地蔵」信仰と地蔵盆を活かした地域活性化事業委員会 2014 年 『平成 25 年度 京都の「地蔵」信仰と地蔵盆を活かした地域活性化事業 報告書』

#### 【参考サイト】

- 京の地蔵盆 京都をつなぐ無形文化遺産 <http://kyo-tsunagu.net/jizo/> (2016 年 11 月 19 日最終閲覧)  
 真言宗のお経 (在家勤行式解説) <http://www.horakuji.hello-net.info/BuddhaSasana/Vajrayana/zaike/sangemon.htm> (2016 年 11 月 19 日最終閲覧)